にぞなりぬる、○略下

〔紀伊國名所圖會一下和歌山〕吹上（フキアゲ）同濱、今府城の西南をいふ、また砂山とて、ちいさき岡のあるもいにしへの遺跡なり、

此吹上の濱といふは、西南の風烈しきときは、白砂を高く吹上て、一夜のほどに一處に吹あつめて山をなし、又しばしが程に吹散して、もとの平地となり、こは常に風眞砂をふき上る、これによりて吹上のはまとはいふなり、此地はむかしより月の名どころにして、文苑古詠かずかずあり、されば年歳累りて名所も廢して、蒼海三たび桑田となるのならひ、今は其俤さへも衞士の甍を連て、出る月も家より出て家に入の風情とはかはりぬ、

〔枕草子九〕はまは　ふきあげのはま

〔後拾遺和歌集九羈旅〕熊野へまゐり侍りける道にて、吹上の濱を見て、　懷圓法師

都にて吹上の濱を人とはゞけふ見る計りいかゞかたらむ

〔紀伊國名所圖會二海部郡〕和歌浦今西南出島浦あり、上古はこゝの洲なくて、一めんの干かたなり、○中略

當浦は扶桑におゐて、名たる勝地にして、○略中東西廿餘町ありて、濱松の色濃、あしべの田鶴波間のちどり、江水は洋々たり、○略下

〔源平盛衰記三十九〕維盛出屋島參詣高野附粉川寺謁法然房事

權亮三位中將維盛ハ、○略中サテモ御舟ニ乘移リ給、○略中八重立霞ノヒマヨリ、御船汀ニ押寄タリ、爰ハイヅコナルラント尋給ヘバ、名ニシオフ紀伊國和歌浦トゾ聞給、夫ヨリ吹上ノ浦ヲ過給ケルニ、一門ヲ離、兄弟ニモ知（シラ）レ子バ、一ハ恨ニ似タレ共、カヽラザラマシカバ、係名所ヲバ爭カ可レ見ト聊慰給ケリ、彼和歌浦ト申ハ、衣通姫ト居、山ノ岩松礒打波、沖ノ釣船月ノ影、シラヽノ濱ノ眞砂ニ、吹上ノ浦ノ濱千鳥、日前國懸ノ古木ノ森、面白カリケル名所哉、サレバ衣通姫、玉津島姫明神ト彰テ、此所ニ住給ヘル理也トゾ思召、○略下